

地域を理解し、有事に備える 宇和島市民の自分事



宇和島東高等学校防災地理部は、東京大学工学部社会基盤学科と連携し、地域のよりよい理解を下敷きにした災害復興への備えについて考えています。市危機管理課の協力で生徒向けの防災学習集会を開催しているほか、周辺校との合同避難訓練や小中学生対象の防災キャンプを企画、運営しています。全国各地の高校や大学とも情報交換しながら、地域の防災力向上を目指し活動しています。

令和5年7月には、東日本大震災の被害や復興まちづくりを学ぶため、宮城県と岩手県を視察しました。東日本大震災の津波被害が当時のハザードマップの想定を超えていたことを知り、防災計画を見直すことの大切さを感じたそうです。視察から戻った後は、市主催の防災シンポジウムなどさまざまな場で報告会を行ってきました。自分たちが感じたことをより多くの人に伝えることで、一人一人が自分事として考えてほしいと願います。

視察メンバーの一人で3年生の徳田 晶さんは「自分たちが行ってきた活動を後輩たちが受け継いでいくことで、宇和島全体の防災力向上につなげたい」と語ってくれました。